8月のほけんだより

令和2年　第237号

呉市役所
子育て施設課
0823-25-3144

ＲＳウィルス＊ヒトメタニューモウィルス

子どもたちが集団生活をする中で，感染症は極力避けたい病気です。

大人も含めて，手洗い，うがい，咳エチケット等で子どもたちを感染症から守りましょう。

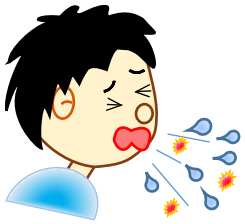
ＲＳウィルス感染症について

ＲＳウィルス感染症って

RS ウイルスは，乳幼児の呼吸器感染症を引き起こす代表的なウイルスです。

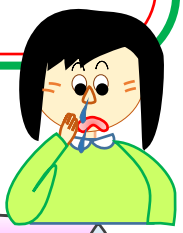
以前は冬に流行することが多かったのですが，ここ最近は 8 月末より流行するようになり，冬以外にも見られるようになりました。特に沖縄や九州，四国などでは季節に関係なく感染する可能性があるため注意が必要です。

咳・くしゃみなどからの飛沫や，ウイルスのついた人や物との接触により感染します。



症　状

主に発熱，咳，鼻汁などのいわゆる“風邪”症状です。重症化すると“ぜいぜい”といった呼吸や，呼吸を一時的に止めてしまう無呼吸発作などをおこし，最終的に肺炎となってしまうこともあります。特に未熟児やもともと肺に病気のある方などは重症化リスクが高いため，慎重に治療を行う必要があります。

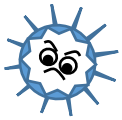


潜伏期と感染力

潜伏期は 3～5 日。

症状が出始めてから 1 週間は感染力が強いため，感染対策に気を配る必要があります。小児では 1 歳までに 50%が，2 歳までにほぼ 100%が感染するといわれています。

ほかのウイルス感染と異なり，お母さんの抗体をたくさん持っている乳児期早期にも感染してしまいます。とくに生後 6 か月未満で感染すると重症化する可能性があります。



検　査

外来では迅速に検査を行うことができますが，通常は，1 歳未満の子どものみが対象となっています。

治　療

特効薬などはなく，基本的には内服などの対症療法を行います。重症の場合は点滴や酸素投与などのため，1 週間以上入院が必要となる場合もあります。

ヒトメタニューモウイルス感染症について

ヒトメタニューモ ウイルス感染症って

ヒトメタニューモウイルスは，小児に限らずあらゆる年齢層で発症する呼吸器の感染症です。

３月～６月に流行することが多く，RS ウイルス，インフルエンザウイルス流行後に流行するといわれています。

RS ウイルスと同じく，咳による飛沫やウイルスとの接触で感染します。

潜伏期と感染力

潜伏期は 4～6 日

発症から１～２週間は感染力が強いため，感染対策が必要となります。生後 6 か月ごろから徐々に感染者が増え始め，2 歳までに 50%，10 歳までに一度は感染するといわれています。RS ウイルスは 6 か月未満の乳児で重症化するのに対し，ヒトメタニューモウイルスは 1 歳以上の幼児で重症化するといわれています。

症　状

症状は発熱，咳，鼻汁などのいわゆる“風邪”症状に加えて，嘔吐や下痢などをおこす場合もあります。乳幼児や高齢者，もともと何らかの病気を持っている方は呼吸困難や細菌の二次感染による肺炎などをおこし，重症化してしまうため注意が必要です。

検　査

外来では迅速に検査を行うことができますが，『診察の上，医師が必要と認める 6 歳未満の患者』が対象です。

治　療

RS ウイルス感染症と同様に特効薬などはなく，基本的には内服などの対症療法を行います。重症の場合や，細菌の二次感染を起こすと，点滴や酸素投与，抗生剤の注射などのため，1 週間以上入院加療が必要となる場合があります。

※どちらの病気も，いつもと様子が違うと感じたら，かかりつけ医を受診しましょう。

ほけんだよりは，くれ子育てねっとの子育て支援サービスでもご覧になることができます。
URL　http://www.kure-kosodate.com/